



(写真提供：一般社団法人 茨城県観光物産協会、撮影：2010年)

## 今月の1枚

# 茨城空港と筑波山

2010（平成22）年3月11日、国内98番目、関東地方3番目の空港として開港した「茨城空港」。2007年に公募により選定された愛称で正式名は「百里飛行場」。航空自衛隊の百里飛行場を民間共用化した共用空港である。開港前の国土交通省算出の需要予測には及ばないが旅客数は着実に伸び、開港3年4カ月経過した2013年7月には旅客数100万人を超えた。

1996（平成8）年に閣議決定された「第7次空港整備5カ年計画」において整備方針が決定された。

「首都圏における国際航空需要の高さ」および「日本における航空自由化の進展」という当時の日本航空業界が置かれた状況を見据え、「航空機の運用方式」や日本初となる「LCC（ローコストキャリア：格安航空会社）対応空港」とするためのターミナルビル構造の見直しにより、「安い！気楽！コンパクト！」という他の空港にはないコンセプトが取り入れられている。

具体的には、①ボーディングブリッジ（搭乗橋）を設置せず、タラップによる搭乗方式としたこと、②航空機の運用を専用車両によるプッシュバック作業を必要としない自走式としたこと、③通常の空港ターミナルビルでは複数階に分かれている旅客動線（出発ロビーは2階、到着ロビーは1階など）を1階に集約したことなどが特長である。

また、安価な運賃設定（航空機利用者片道500円、非利用者片道1,000円）による東京駅との直行連絡バス運行など、LCC受入れに対する先進的な取組みが評価され、2010年10月には、シドニーに本社をおく航空系シンクタンクCAPA（航空情報センター）から、日本の空港初となる「ローコストエアポート・オブ・ザ・イヤー」を受賞している。

空港を核とした地域振興や観光振興に繋がる首都圏セカンダリー空港として今後の期待が持たれている。



- ◆ JR常磐線「石岡駅」より車で約30分
- 北関東道「茨城空港北IC」より車で約15分
- 常磐道「石岡小美玉スマートIC」より車で約30分